

# 佛心

二〇二三年七月・八月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会



「仏性」  
と  
「仏種」

本日は、「仏性」についてお話ししたいと思います。

「仏性」とは、梵語でブツダ・ダーツ (Buddha-dhatu) といい、仏になる可能性、仏の本性、仏のさとりそのものの性質など様々な解釈があります。

大乘仏教では、一切衆生すべてこの性を有しているとされています。また浄土真宗では、往生成仏は阿弥陀如来の本願力によるものとするから、如来が衆生に与えられた信心を仏性としませす。(んん。難しい・・・)

トロント仏教会の一人目の駐在開教使であった辻先生は、このことを

「仏性とは、すべての生きとし生けるものを大慈悲の心で見つめる、生ま

れながらにして備わった能力である。

(略) 仏性は、人を仏にする。私たちがこころして聞かなければならないのは、釈迦如来の『自分の中にある仏性に気づく』という言葉である。」

と書き残されました。

この『自分の中にある仏性に気づく』とは、釈迦如来が涅槃に入る際に残された言葉「自灯明・法灯明」の意識ではないかと思われます。(分かるような、分からないような。少しづつ分かってきたような・・・)

少し真宗教学とはズレますが、涅槃経にもこの仏性について大変興味深い言葉が残されています。

それは「草木国土悉皆成仏」という言葉です。草木や国土のような心識をもたないものも、すべて仏性を有するので、ことごとく仏となりうるという意味の成語です。

この経典の注目すべき点は、人間が、もしくは人間のみが、己の力“自力”で仏性をつくることはできないということと。つまり、仏性は私たちがつくりだすものではなく、仏様の本願“他力”や信心のように、すべての生きとし生けるものが仏になるためにあるものなのです。

興味深いことに英語では、この「仏性」を“Buddha Seed”「仏になる種」として訳されることが多々あります。(私もよく使います。分かりやすいので。)

例えば、花は、水や光といった縁間接的原因“がなければ花を咲かすことはできません。しかし、そもそも種といった因“直接的原因“がなければ、花を咲かすどころの話ではなくなつてきます。

つまり仏性は、私たちが仏になる種“因”であるということはこの英訳から読み取れます。(真宗では「信心正因」というように、信心こそが正に仏になる因であると説きます。この話はまたの次回・・・)

(花の例え話をしたので、ついでに) 親鸞聖人は『正信偈』の中に、梵語 プンダリーカという花について書かれている箇所があります。

「白蓮の花」白蓮華 (びやくれんげ) のことです。

一切善悪凡夫人

聞信如来弘誓願

仏言広大勝解者

是人名分陀利華

※下線部分がプンダリーカの音写

「善人も悪人も、どのような凡夫であつても、阿弥陀仏の本願を信じれば、仏はこの人をすぐれた智慧を得たものであるとたたえ、汚れない白い蓮の花のような人とおほめになる。」

『教行証文類』現代語版145～146頁

(梵語を音写としてそのまま偈文に入れるところに、親鸞聖人のセンスの塊を感じるのは、私だけではないはず・・・)

白蓮花は、蓮の花の中でもっとも高貴なものだとされ、仏のこと、もしくは仏の解かれた諸法実相の法のことをあらわします。

真宗では、この白蓮花に喩えられるようなすぐれた人を、念仏の行者、信心の人としていいます。(少し分かりやすく、もう一度例え話をします)

蓮は泥中に根をはり、水中で茎を伸ばし、空に向かって花を咲かせます。

泥中が私の煩惱をだとすると、そこに根をはる私は、いつまでも空を見上げることはできません。

到底、自分の力で泥から這い上がることもできなければ、ましてや煩惱という泥に自ら深く入り込む存在でもありません。(はたまた、入り込んでいることにすら、気がつかない私でもあります。)

その泥まみれの私に届く光 // 仏の智慧が照らされたとき、私はそのありのままのすがたを知ることとなります。

そして阿弥陀仏は、泥に沈めるこの私を放っておくなく、泥まみれの私をそのまま救うと、お手回しをしてくださった仏様です。

仏性は、私たちが泥「娑婆世界」から、空「浄土」を、見上げられる「往生成仏される」、因として説かれます。

そして、その因は信心でもあり、念仏を通していまの私たちに至り届いています。

だからこそ、親鸞聖人は「一切善悪凡夫人 聞信如来弘誓願 仏言広大勝解者 是人名分陀利華」と、仏様の徳とそれを聞く衆生を白蓮華に例えて讃嘆されたのでしょう。

阿弥陀仏の智慧と大慈悲の光は、生きとし生けるものすべてを照らしています。その阿弥陀如来のおはたらきは、嬉しいことがあつても、楽しいことがあつても、悲しいことがあつても、辛いことがあつても、常に私たちに届く念仏のみ教えです。合掌

トロント仏教会

駐在開教使 大内祐真

# お墓参りのご案内



お盆とは先にお浄土へ還って往かれた方々を偲び  
 そのお導きによって私が今、お念仏する身へと  
 お育ていただいた事に感謝する大切なご縁です。  
 是非ともご家族おそろいでお参りになって下さい。



7月8日（土曜日） お墓参り トロント各墓地

## お墓参りのスケジュール

<u>大内祐真開教使</u>		<u>スーザン恵比寿崎</u>		<u>ジェフ・ウィルソン先生</u>	
York Memorial	9:30 AM	Sanctuary	9:00AM	Meadowvale	
Prospect	10:45 AM	Riverside	9:30 AM	Glen Oaks	9:30 AM
Park Lawn	11:45 PM			Spring Creek	10:00 AM
<u>ロバート・グベンコ開教使</u>		<u>ポーリンクヌーデ</u>		<u>デニス間所</u>	
Toronto Necropolis	9 AM	Salem U.C	11AM	Elgin Mills	10:30 AM
St. James	9:30 AM	Pine Ridge	12PM	Highland Memorial	11:30 AM
Mount Pleasant	10:15 AM				
<u>ケン・シゲイシ</u>		<u>ジョン西川</u>			
Pine Hills	9:30 AM	Glendale	9:30 AM		
Resthaven	10:45 AM				

## 盂蘭盆会法要（お盆）のご案内

日程：2023年7月8日（土） 午前：お墓参り  
 午後：盆踊り @JCCC  
 2023年7月9日（日） 午前9時：初盆法要  
 午前11時：英語盂蘭盆会  
 午後1時：日本語盂蘭盆会

初盆法要ならびに盂蘭盆会法要に関して質問のある方は、当寺院の事務所  
 < tbc@tbc.on.ca >までご連絡下さい。※JCCC盆踊りに関しましてのお問合せは、  
 JCCCまで宜しくお願い致します。

今年は、カルガリー仏教会のロバート・グベンコ開教使をトロント仏教会  
 の盂蘭盆会法要に招いてご法話をいただきます。大変まじめで真つすぐな先生  
 で、柔らかい口調で優しく仏さまの教えを説いて下さる開教使です。是非ともご  
 家族そろってご参拝下さいませ。



# 祥月法要のお知らせ

## 2023年 8月 - 9月

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

日時：2023年8月6日 - 9月10日（英語：午前11時から）（日本語：午後1時から）

場所：トロント仏教会

※9月は例年通り第二日曜日が祥月法要となります。

ZOOMでの参拝を希望される方は、その旨を<tbc@tbc.on.ca>までお知らせください。

寺院事務所からzoom link を送らせていただきます。

故人が祥月でない方もご遠慮なくご参拝下さい。

